



かえで



編集 社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東砂6-2-14-3階 TEL 5617-3750 FAX 5617-3752



理事のごあいさつ



原 隆典

少しずつ朝晩の冷え込みも落ち着いてまいりましたが、穏やかな春を迎えたいところではありますが、新型コロナウイルス関連の日々の報道に落ち着かない日々を過ごされている方が多いことと思います。

当法人におきましては、厚生労働省をはじめとした関係各所から発信されている通知等に対応するとともに、法人内外における情報交換等により大きな混乱を生じることなく運営できるように努めております。引き続き、皆さまのご理解、ご協力を賜りたく存じます。

当法人の現況といたしましては、昨年11月に法人の実地指導検査により挙げられた指摘事項の1つ1つを精査し対応を進めていくことで、社会福祉法人に求められている組織経営のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上ならびに財務規律の強化に向けた対応に努めてまいりました。安定した法人運営により、各事業所等における質の高いサービス提供へとつなげていくためにも、一過性の対応にとどまらぬように心がけていきたいと考えております。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



今年度の振り返りと次年度の抱負

亀戸福祉園 支援員 埴谷 孝行

今年度、新利用者2名を受け入れ合計55名の利用者でスタートを切りました。日頃の園内での活動では自主生産品のビーズ製品の作成や音楽、運動の他にも受注作業のボールプール用のボール洗浄、地域情報誌のチラシ配布をするなど地域との繋がりを持つことを大切にしてきました。毎年恒例のかめ亀カーニバルでも多くの方々が来園され、サンバやゲームなどを行い、近隣の方々や関係者のご協力のもと大盛況なお祭りとなりました。

宿泊旅行では、静岡県沼津に行き伊豆・三津シーパラダイスでは、イルカのショーなど海の動物達に間近で見ることができ、利用者の方も大満足の様子でした。また、宿泊先のホテルのお風呂も大きくゆっくり湯につかることができ夕食も地元食材の豪華な食事を堪能しています。2日目はめんたいパークと鈴鹿かまぼこの工場見学の二つの選択先に分かれてそれぞれでお土産を買ったり、見学をしています。天候にも恵まれて楽しい宿泊旅行となりました。

1月には成人を祝う会を行い、今年度は2名の方が成人を迎えられました。皆の前で緊張した様子でしたが、晴れ着を着て笑顔いっぱい嬉しそうな表情をされていました。園の仲間全体で心温まる雰囲気の中で成人のお祝いをしました。

来年度は新たに3名の利用者を受け入れ、職員も入れ替わり新体制でのスタートとなります。利用者の方にはより楽しい園生活を、ご家族の方にも安心していただける亀戸福祉園にしていきたいと思っております。

今年度の振り返りと来年度の抱負

高齢障害者通所施設さくら 施設長 桑島 直之

今年度も残りわずかとなりました。この原稿を書いている時点では新型コロナウイルス感染症が社会の話題を独占しています。今年、予定されている世界的なビッグイベントである東京オリンピックについても現時点では、本当に今年開催できるのか、不透明となっています。無事に開催できると良いのですが…。

さくらとしまして、今年度は利用者、ご家族ともども大きく体調を崩す方がおらずに、皆さん健康に過ごすことのできた1年となっていました。高齢となられた利用者、ご家族の多い、当事業所ではこの皆さんの健康が何よりであると考えています。これも利用者の方、ご家族、利用者の方が生活されているグループホームなどの関係機関の皆様が手洗いやうがいをはじめとする体調管理への意識を高く持っていただけたことによるものと考えています。この場をお借りして改めてご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度の抱負としましては…やはり、利用者、ご家族の皆さんが健康に過ごしていただくことが一番大切であると考えています。来年度も健康で元気なさくらの姿を皆さんへお届けできたらと考えています。来年度も宜しくお願ひします。

「今年度の振り返りと次年度の抱負」

ワークセンターつばさ 濱谷 美幸


早いものでワークセンターつばさに異動してきて、1年が経とうとしています。

新しい環境での仕事はとまどう事も多くありましたが、優しく声を掛けてくれる利用者の方や一緒に働く職員に支えられながら穏やかな日々を過ごしてきました。

日中活動の作業や行事を通してたくさんの利用者の方とふれ合う中で、コミュニケーションを大切に心掛けてきました。自分自身の言葉の不足、確認や説明が不十分で相手に上手く伝わらずに失敗する事もありましたが、関わる時間が長くなるにつれて自分なりに少しずつ役割や楽しさを見出せるようになってきました。

自主生産品での業務が長く、数年ぶりに受注作業に携わりました。新鮮な気持ちで取り組めたのはもちろんですが、以前経験した事のある受注作業の進め方とは異なる部分が多く、完成させるまでの工程により多くの利用者が携わっていると感じました。出荷する前段階の数を確認する工程やまとめの部分など難易度の高い事も利用者の方が取り組む仕事として工夫しているのにはとても驚きました。

今年度は分からない事をきちんと確認して着実に業務を覚えるという目標で過ごしてきましたが、次年度は視野を広く持ち、職員間の連携や経験者としての発信、新たな自主生産品についても知識や技術を身に付けていきたいと思えます。



「今年度の振り返りと次年度の抱負」

若竹作業所 原 未来

今年度施設長はじめ、職員間で重点的に取り組んできたことは「時間を守る」ことです。年度当初はその日の活動の共通意識が持てず、活動の準備が遅れ、利用者の方から「仕事の時間はまだですか？」と話があったり、準備を待っていただいている間に利用者同士でトラブルが起きその対応に追われてさらに時間が過ぎていく…ということが続きました。自分自身「定刻に活動を始めるのは無理なんじゃないかな」と思うことや、「冷静に割り振ると職員の人数は足りてるのになぁ」、「職員が主体的に活動に参加するためにはどうすれば良いのだろう？」等と日々葛藤がありました。施設長からのアドバイスは「まずは自分を変えること」。その日に行う活動を具体的に自分の中で整理し、朝のうちに各職員に何をいつまでに準備をしてほしいのか伝えていき、再度職員全体で活動へ向けて考えていくようにしました。まだ習慣化していませんが、「何か準備や手伝えることはありますか？」と職員間で声を掛け合う場面が以前に比べて増えてきました。

また、昨年度までは17時近くまで更衣室で利用者同士話をして過ごしている日がありました。今は16時30分に更衣室を施錠しています。当初は「夕方に話ができないことで不満や不安が溜まっていくのでは…？」と思うことがあり、実際に今でもその日のうちに拭えなかった

気持ちを翌日の朝に持ち越す方もいます。自分自身としては次第に、「夕方の時間を使わなくても日中に利用者の不安な思い等を解消できるようにしよう」とより強く考えるようになりました。改めて利用者同士の関わりや行動を観察し、いつもと違う表情、休み時間等にいつもと違う場所で過ごしている等、些細なことに意識を向け、「何故だろう」とそれ以前の言葉や様子から利用者の方の気持ちや起こるであろう行動を推測し、話を伺うことで不安や悩みを少しでも解消できるように職員で努力をしています。

日中活動を提供している自分たちにできる支援とは何か考え、日中の中で対応が難しいことは関係機関等に繋げて協力をしながら、利用者の皆さんに前向きに通所していただくために次年度も日々取り組みたいと思います。

「二年間の振り返りとこれからの抱負」

第三あすなろ作業所 遠藤 仁美

第三あすなろ作業所に異動をして、まもなく2年が経過しようとしています。今年度を飛び越えて振り返らせていただくと、一言で、『初体験三昧』でした。

まずは、係長としての役割を覚えること。携わったことのない事務業務はもちろんですが、物事を決める（答えを出す）、そしてその理由をきちんと説明するということが未だに苦勞をしている点です。出した答えに対する結果が十分に想定できないことで、悪い方向に転じてしまうのではないかと思うことや、失敗したくないという想いがちらつくことで、迷い、判断ができずにいます。ですので、まず一つ目の抱負は、迷いながらも、失敗を恐れず自分なりの答えを出すことだと思っています。

苦しいことばかり書いてしまいましたが、基本的にはニコニコしていただけることと、「ありがとう」を誰にでも伝えることは、この二年間比較的できていたのではないかと感じています。笑顔の力は、どんなに陰悪なムードの場合も、体調が悪い時でも、笑顔を浮かべるだけで空気が変わり、元気が出てくるものです。また、周囲の笑顔から元気がもらえることもありますし、自分自身が笑顔でいることで、自分に良い影響がもたらされると思います。「ありがとう」も同じように、感謝の気持ちを言葉で伝えると、お互いに幸せな気持ちになりますし、表情が柔らかくなります。ですので、二つ目の抱負は、笑顔と「ありがとう」を絶やさないこと、また、そのために、事故なく元気な体を維持できるようにしていきたいと思っています。



新たな年度の課題

江東区リバーハウス東砂 支援員 岡崎 吉泰

当事業所が3年通過型のグループホームとして開所して今年度いよいよ3年目を迎えます。2年前のスタートから利用者の方が家庭を離れ、様々なサービスを利用しながら、地域生活を行ってきました。職員もおひとり、おひとりがよりご本人らしく、より有意義で、より快適な生活を送るというテーマと向き合ってきました。その結果「自分らしい生活」を少しずつですが見つけて頂けてきているように思います。今年度はいよいよ新しい環境へ旅立っていく準備をしなければいけません。支援者は「グループホームの中で充実していればいい。」という考えではなく「いかに新たな生活の中で利用者の方が快適にすごすことができるか。」を熟慮し、行動していく事が必要になります。「今の生活でなぜ快適に過ごしているのか。」のポイントを誰にでもわかる形で具体化する事やどのような手助けが必要か、そのためにはどのような社会資源とパイプをつなぐことが必要かなどをはっきりさせて準備する事が必要です。またご本人やご家族が新しい環境への選択肢が持てる様に情報収集、情報提供をしなければなりません。利用者の方は新しい生活の中でそれぞれの方にとって課題になると思われる事の対応を今の環境の中で経験しておくことが重要かと思われまます。利用者の方にとっても支援員にとっても今まで経験の少ない事になります。改めて支援者は利用者の方の立場に立ってしっかり支援をしていきたいと思ひます。

短期入所事業、緊急一時保護事業も2年間で多くの利用を頂いております。先日利用者アンケートをとり、それぞれの利用者の方からご意見、ご要望を頂きました。新年度は今回のアンケートを参考に改めて短期入所、緊急一時の利用者の方がより快適により過ごしやすい支援を目指して努力していきます。

「31年度を振り返って」

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 萩原 洋

31年度は平成から令和に時代が変わった年です。楓の会ヘルパーセンターも大きな変化があり、開設当初から管理者として就いて頂いた夏梅顧問がその職を退いたり、事務員の交代があったりしました。また、常勤職員が休職して一人少ない状況で、利用者に迷惑をかけてしまうこともあった一年でした。その中でも、ヘルパーの協力もあり、安定的なサービスの提供に取り組むことができ、事業を継続することができました。

今年に入り、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、年度末は特に移動支援が殆んど機能せず、今までにない状況になってしまいましたが、居宅介護や重度訪問介護といった訪問系のサービスは、例年通り維持することができました。

令和2年度は、気持ちを新たに、新型コロナウイルスに負けないよう、チーム一丸となって、より一層の事業運営に取り組んで行きたいと思ひます。また、ヘルパーや関係者の皆様の協力を得ながら、利用者の生活を支えて行きたいと思ひます。今後とも楓の会ヘルパーセンターを宜しくお願い致します。

「今年度の振り返りと次年度の抱負」

共同生活援助かえで 管理者 仲俣 圭

今年度を振り返ると、共同生活援助かえでの令和元年度はまさに激動の1年だったかな…と思います。

細かい事はいくつかありましたが何より一番大きな事柄は、新たに1ユニット（かえでプラス）が増えた事です。まっさらな所から準備を始め、何をどうしていくか日々試行錯誤の毎日を過ごし、その様な中で本部職員ならびに関係事業所職員にも大変お世話になり、どうにか令和元年10月1日に開所の運びとなりました。

開所より6ヶ月。あっという間に経ちました。どこかよそよそしかった部屋も、だんだん馴染んできて、利用者もすっかり新しい生活に慣れた様子です。まだまだ時折びっくりするような出来事が起こりますが、安全で健康な生活を安定して送れるよう支援をしていきたいと思っています。

年始には、かえでプラス・かえで・第二かえで全体での初詣行事を今年も行いました。すごい人波に押し合いへし合いしながら、浅草寺でお参りをして来ました。

さて、次年度の抱負ですが…。かえで・第二かえでが開所して15年を迎えます。平均年齢もぐっと上がってきています。今まで出来ていたことが難しくなったり、体も少しずつ弱くなってきている様な印象も受けます。世話人もその様な視点から支援を見直す必要も出てきているかと思われまます。それらを踏まえ、これからの5年・10年を見越した支援を考えて行きたいと思っています。そして、利用者には何か“かえでで暮らしていて良かったな…”と思えるような行事を計画出来たらと思っています。

令和元年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第41号からつづく)

宮内 洋	中島 清美	佐藤 史仁	佐藤 充宏	興水 康弘	福家 美奈子
富樫 友春	片桐 謙一	岩橋 幸子	原 未来	伊藤 善彦	高橋 淳子
伊藤 涼子					

(なお、令和2年 3月 13日以降 賛助会員は 次号につづく)

ご寄附

○ 熊倉 アイ子 様

ご寄附を賜り厚く御礼申し上げます。

ご寄附いただいたものは、法人事業に使わせて頂いております。

編集後記

日頃の当法人への運営に際し、多大なるご協力とご理解を賜りありがとうございます。

今号は今年度の振り返りと次年度の抱負というテーマで原稿執筆をお願いしました。

私自身も業務を遂行していく中で、年度当初に、抱負を掲げた際は、やるぞ！という気持ちが日々の業務を行っていく中で薄れてしまうこともあります。その気持ちをいつでも思い返せるように抱負を目に付くところに掲載しています。ちなみに、今年の抱負は「整理整頓」その効果もあり、昨年度よりは、デスク周りは片付いていると私は感じております。

皆様も、なにか目標や抱負など目に付くところに貼りだしてみてもはいかがでしょうか。

次号の発行は6月を予定しております。

